

令和7年度
シラバス

教科・科目	公民・政治・経済	単位数	2
-------	----------	-----	---

学年・クラス	3 学年（必修・ 選択 ）	担当者	森下 貴秋
使用教科書	実教出版 最新 政治・経済		
使用副教材	実教出版 2025ズームアップ政治・経済資料、実教出版 最新 政治・経済 演習ノート		

目 標

政治・経済では社会の在り方に関する現実社会の諸課題の解決にむけて探究するための手がかりとなる考え方について理解するとともに、諸資料から社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につける力を育成することを目指す教科である。

授業の内容・進め方

内 容：政治と法、経済活動と市場など中心に学びこれからの社会のありかたについて、課題意識を持って学習します
進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことを深く調べたり、自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭学習での予習・復習が必要です。

考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、表現力・資料活用の技術が試されます。

観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解し自分のものにしているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
近現代の	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治、経済活動と市場、物価と景気変動、財政の働きとしくみ、租税の意義金融の働きとしくみ、国民経済活動の大きさと経済成長など学び社会の事象通じて理解する力を養う。	政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務の関係、議会制民主主義、地方自治、経済活動と市場、物価と景気変動、財政の働きとしくみ、租税の意義金融の働きとしくみ、国民経済活動の大きさと経済成長などの事象に着目して多面的・多角的に考察したり、課題を把握し、解決を視野に入れて構想したりする力を養う。	国民主権を担う公民として、現代日本の諸課題に対する意義を強く持ち、課題に関わる知識を主体的に深めたり、課題解決にむけた多面的・多角的な考察や構想を意欲的に行ったりしながら現代社会における自分自身の役割を積極的に追求しようとする態度を養う。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年3回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

- ・ 観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。
A：十分満足できる B：おおむね満足できる C：努力を要する
- ・ 評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
前期	4	第1部 現代日本の政治	民主政治と法 民主政治の基本原理 民主政治のしくみ 世界の政治制度 日本国憲法	政治と国家、政府が何であるかを理解している 法の意義と、法の文類を理解している ホッブズ、ロック、ルソーの考え方の共通点・相違点を読み取り理解している。	政治とはどのような営みか、自身の身近な事例にも言及しながら考察し、適切に表現している 基本的人権や法の支配の重要性について、歴史的背景にも言及しながら考察し、それらを適切に表現している。	国民主権を担う公民としての自覚をもとに、民主政治のあり方や法の意義などについて主体的に理解・追究しようとしている。基本的人権や法の支配の重要性などについて主体的に理解・追究しようとしている。
	5		自由に生きる権利 平等に生きる権利 社会権・参政権・請求権・新しい人権 平和主義と自衛隊 日米安全保障体制 平和主義	自由権・平等権・社会権などの諸権利の内容について、各種判例も踏まえながら理解している 冤罪や死刑制度、さまざまな差別、生存権の保障など、人権に関する現実社会の課題について理解している。	自由権、平等権、社会権について、各種判例や自身の身近な事例などと結びつけながら協働的に考察し、適切に表現している。 日本国憲法における人身の自由について考察し、適切に表現している。	基本的人権が保障されていることの意義を知り、関心が高まっている。また、たとえば平等権と社会的な差別の諸課題について多面的かつ主体的に考察し、よりよい社会の実現を視野に、学習したことを社会の改善に生かそうとしている。
	6		政治機構と国会 内閣と行政機能拡大 公正な裁判 地方自治と住民福祉 選挙制度 世論と政治参加	国会の役割や権限、運営について理解している。議院の優越について理解することができている。内閣の権限や議院内閣制のしくみについて理解している。行政権の拡大と官僚政治の課題、その転換に向けたさまざまな改革について理解している。	本文理解を踏まえたうえで、「国会はなぜ国権の最高機関とされるのか」といった議題について考え、適切に表現している。議員立法に関する情報を読み取りその課題について多面的に考察している。	日本の政治機構について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。 行政権の拡大について関心を深めており、官僚政治と官邸主導のそれぞれの長所と短所について主体的に追求しようとしている。
		前期中間考査				
	7		経済活動の意義 経済社会の変容 経済主体と市場の動き 企業の役割	生産・分配・消費、希少性、トレードオフ、機会費用など、経済の根本的な概念について理解している。 資本主義経済の成立と展開、経済における政府の役割の変化について理解している。	資源の効率的な配分について、効率性と公平性の観点から多面的に考察している。 資本主義経済の成立以降、経済社会がどのように展開していったか政府の役割の変化と関連させて考察している。	よりよい社会の実現を視野に、経済的な効率性と公平性の関係について学習したことを社会生活に生かそうとしている。資本主義経済と社会主義経済の特徴について主体的に追究して、学習上の課題を意欲的に解決しようとしている。
	8		国民所得 経済成長と国民福祉	NIの生産・分配・支出のそれぞれの内容とともに、3つが理論的に同額になることを理解している。	景気変動による私たちの生活と企業の成長への影響や、政府による景気安定化政策について多面的・多角的に考察し・構想したりしたことを、論拠をもって表現している。	経済成長による経済的な豊かさと幸福について、数値化することが困難な経済活動や生活の諸行動をどのように評価するべきかという観点から、主体的に考えを導きだそうとしている。
	9		金融の役割 日本銀行の役割 財政の役割と租税 日本の財政の課題 日本経済の成長と課題 中小企業と農業 消費者問題 環境問題 環境保全	金融は、信用創造等により、家計や企業からの資金を様々な経済主体に投資することで資本を増加させ、生産性を高め、社会を豊かに発展させる役割を担っていることを理解している。 中央銀行の役割や金融政策の目的と手段について理解している。	景気のそれぞれの局面に対処するため、日本銀行がどのような政策をとっているか、企業との関係も含めて多面的・多角的に考察、構想したりしたこと、論拠をもって表現している。 一般会計の歳入・歳出について、一部項目が大きく増加した背景を考察し、適切に表現している。	金融技術の革新について主体的に追究して、それらをよりよい社会の実現を視野にしながら生かそうとしている。 金融商品についての関心を高めており、リスクとリターンとの関係などをよく理解したうえで、無理のない資金運用を心がけようとするなど、学習したことを社会生活に生かそうとしている。

		前期期末考査				
学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
後 期	10		労働問題と労働者権利 こんにちの労働問題 社会保障の役割と課題 現代日本の諸課題	労働基本権と労働三法の内容について理解している。職場における不当な差別的扱いがあってはならず、そのための法整備と対策が急がれることを理解している。	なぜ労働法規によって労働者の権利保護が図られているのか協働的に考察し、それらを適切に表現している。 どうすれば職場における不当な差別的取り扱いが解消できるのか、多面的に考察している。	日本の労働をめぐる現状と課題を理解したうえで、諸外国の労働環境やこれからの日本の労働環境について興味関心をもち「日本におけるワーク・ライフ・バランスの実現を探究するための意欲を高めている。
	11	第2部 現代の国際政治 国際社会	現代の国際政治 現代の国際経済 国際社会と国際法 国際社会の変化	国際社会の変遷、人権、国家主権、領土（領海、領空を含む）などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解している	国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現している。国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	国際社会を担う一員として、現代の国際社会における諸課題に対する意識を強く持ち、課題にかかわる知識を主体的に深めたり、課題解決に向けた多面的・多角的な考察・構想を意欲的におこなったりしながら、現代社会における自身の役割を積極的に追究しようとしている。
	11	後期中間考査				
			国際連合・国際協力 こんにちの国際政治 人種・民族問題	国際連盟の成立と崩壊の歴史的経緯について理解している。勢力均衡と集団安全保障の違いについて理解している。国際連盟と国際連合の違いについて必要な情報を適切に読み取ることができている	国際連合が抱えている課題について、採決や財政の観点などから協働的に考察し、それらを適切に表現している。安保理改革の必要性について、大国一致の原則や拒否権の行使の観点から協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。	国際連合の専門機関が取り扱っている人権や社会、経済や環境問題に関する行動について主体的に追究し国際的な課題を意欲的に解決しようとしている。国際連合のしくみや取り組みを理解したうえで国際社会における平和の実現について興味関心をもち「持続可能な平和のあり方を探究するための意欲を高めている
	12		貿易と貿易収支 軍拡競争から軍縮へ 日本の外交 外国為替市場のしくみ 第2次世界大戦後の国際経済 新興国の台頭	核抑止論の考え方について理解している。また、安全保障のジレンマのために軍縮が進めにくくなっている構造について理解している。核廃絶に向けた運動が盛り上がるなか、数々の軍縮条約が締結されていった経過について理解している。NPTに参加しない国があることや、CTBTの発効の見通しが立たない状況など核廃絶に向けて課題が残されていることを理解している	安全保障のジレンマを乗り越えて軍縮を進めていくためには何が必要となされるか、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。 核保有国を増やさないためにはどのようなことが必要か、多面的・多角的に考察している。 日本の領土問題について、平和的な解決のために必要なことを多面的に考察している。	核兵器禁止条約について主体的に追究し、賛成を表明した国と反対した国の主張を比較して、さらに多くの国が参加するためには何が必要なのか、意欲的に検討し解決しようとしている。 よりよい社会の実現を視野に、軍縮における合意形成の過程を参考にして他者との意見調整などに生かそうとしている。国際貢献について主体的に追究し、政府レベルや企業レベル、市民レベルの観点から、課題を意欲的に解決しようとしている。
	1		経済のグローバル化とICTでかわる世界経済 発展途上国の課題 地球環境問題 資源エネルギー問題 経済協力と日本の役割 国際社会における諸課題の役割	グローバル化した世界において、多国籍企業の大々になっていることを理解している。グローバル化によって人の往来が活発になり、そのなかで共生が課題となっていることを理解している。 金融のグローバル化の結果、資本の国際取引が活発になったが、その一方で投機的資金の移動が実体経済を脅かすこともあることを理解している	共生の課題について経済移民を労働力ではなく「生活人」として擁護するためにはどうすればよいか、協働的に考察・構想し、それらを適切に表現している。国際的な資本取引に対する金融規制をどう考えるかについて協働的に考察し適切に表現している。グローバリゼーションがもたらすメリットとデメリットに何があるか考察している。	国際的な資本取引に対する金融規制について主体的に追究し、OECDにおける議論などを参考にしながら意欲的に解決しようとしている。 よりよい社会の実現を視野にグローバリゼーションと共生の課題について学習したことを、自らの生活圏内に生きる外国人労働者に対するまなざしの中で生かそうとしている。